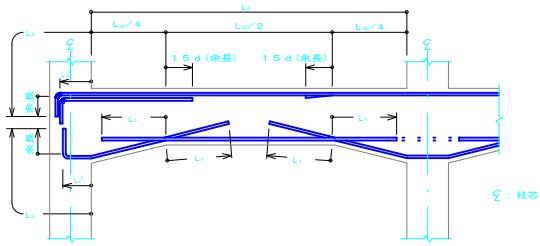


4 建築工事

(2) 一般階の場合



4. 1 0. 5 図 ハンチのある大梁の定着及び余長（一般階）

(注) 1. 4. 2 異形鉄筋の束端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。

2. 印は、継手及び余長を示す。

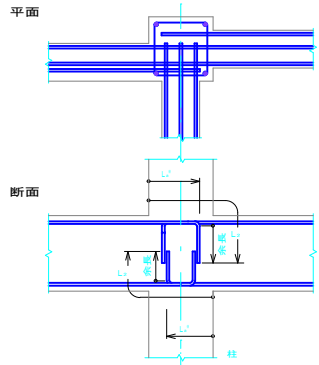
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、 $\angle 45^\circ$  のように引き通すことができる。

4. 破線は、梁内定着の場合を示す。

※  $L_d$  は、原則として、4. 5. 3 表の数値かつ柱せいの  $3/4$  倍以上とする。

4. 1 0. 4 水平段差のある場合

(1) 水平段差のある場合

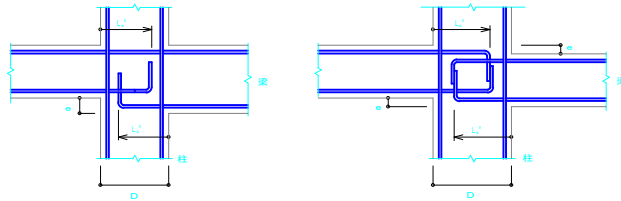


※  $L_d$  は、原則として、4. 5. 3 表の数値かつ柱せいの  $3/4$  倍以上とする。

4. 1 0. 6 図 大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）

4. 1 0. 5 鉛直段差（e）のある場合

(1)  $e/D \leq 1/6$  の場合

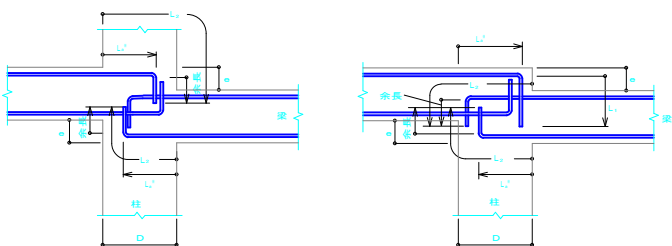


定着の長さは、4. 1 0. 2 図に準ずる

※  $L_d$  は、原則として、4. 5. 3 表の数値かつ柱せいの  $3/4$  倍以上とする。

4. 1 0. 7 図 鉛直段差梁（その1）

(2)  $e/D > 1/6$  の場合



一般階

最上階

※  $L_d$  は、原則として、4. 5. 3 表の数値かつ柱せいの  $3/4$  倍以上とする。

4. 1 0. 8 図 鉛直段差梁（その2）

4. 1 1 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

4. 1 1. 1 一般事項

(1) 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とする。

(2) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、 $L_d$  とする。

(3) 土圧、水圧を受ける梁は、図面による。

(4) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10ー1000mmピッチ程度とする。

4. 1 1. 2 あばら筋組立の形及びフックの位置

(1) 形は、4. 1 1. 1 図（イ）を標準とする。

ただし、（イ）によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。

a. 床版が片側に付く場合は、（ロ）又は（ハ）

b. 床版が両側に付く場合は、（ロ）～（ニ）

(2) フックの位置

a. （イ）の場合は交互とする。

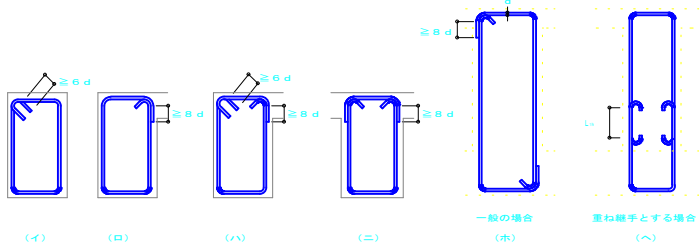
b. （ロ）の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側

床版が両側に付く場合は交互

c. （ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げ、8d確保する。

d. （ホ）（ヘ）の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが

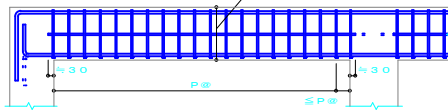
1. 5m以上の場合に適用する事ができる。（基礎梁）



4. 1 1. 1 図 あばら筋組立の形及びフックの位置

4. 1 1. 3 あばら筋の割付け

(1) 間隔が一樣でハンチのない場合

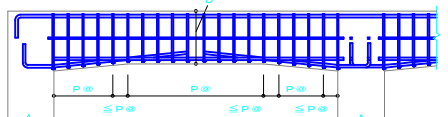


(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4. 1 1. 2 図 あばら筋の割付け（その1）

(2) 間隔が一樣でハンチのある場合

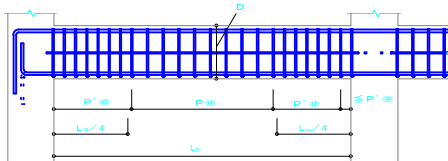


(注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。

2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4. 1 1. 3 図 あばら筋の割付け（その2）

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

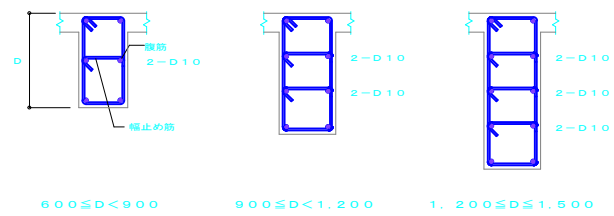
2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4. 1 1. 4 図 あばら筋の割付け（その3）

4. 1 1. 4 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁

a) 腹筋及び幅止め筋



4. 1 1. 5 図 腹筋及び幅止め筋

(2) 特殊な梁

腹筋及び幅止め筋は、図面による。

4. 1 2 小梁及び片持梁の配筋要領

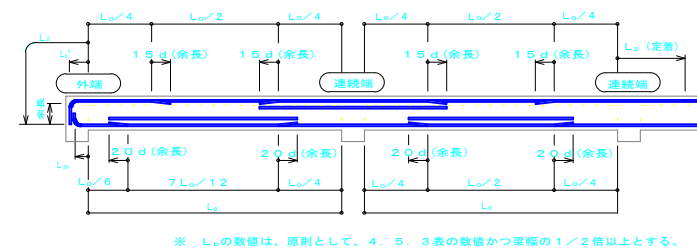
4. 1 2. 1 一般事項

(1) 図面にない事項は大梁、梁のあばら筋の項に準ずる。

(2) 印は、継手及び余長を示す。

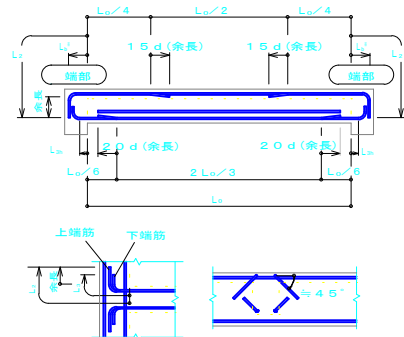
4. 1 2. 2 小 梁

(1) 連続小梁の場合



4. 1 2. 1 図 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(2) 単独小梁の場合



4. 1 2. 2 図 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

(注) 1. 印は、継手及び余長を示す。

2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。

※  $L_d$  は、原則として、4. 5. 3 表の数値かつ梁幅の  $1/2$  倍以上とする。

4. 1 2. 3 片持梁筋の定着

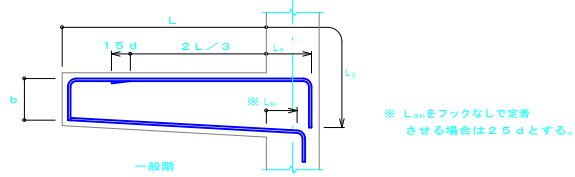
(1) 先端に小梁のない場合

a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に

取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、

2本以上を柱に定着する。



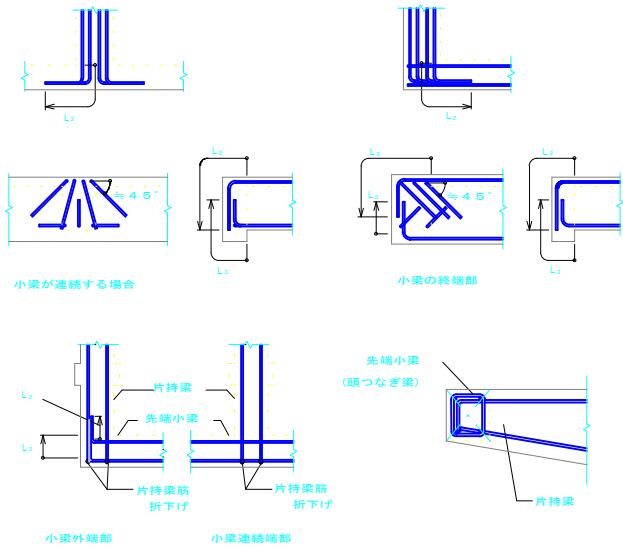
4. 1 2. 3 図 片持梁主筋の定着及び余長（先端に小梁のない場合）

(2) 先端に小梁がある場合

a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。

b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



4. 1 2. 4 図 片持梁主筋の定着

事業名	南魚沼市上水道事業				
工事名	令和2年度 改良第7号 上田配水池建設工事				
施工地名	南魚沼市 蟹沢新田 地内				
構造細目共通図（複合構造物）（10）			縮尺	図示	
図面番号	工期	着手日	令和	年	月 日
第54/61号	竣工日	令和	年	月 日	
発注者	南 魚 沼 市 長		監理員	総括 水道課 上村 栄二 主任 水道課 上村 優	
請負者			配管工		